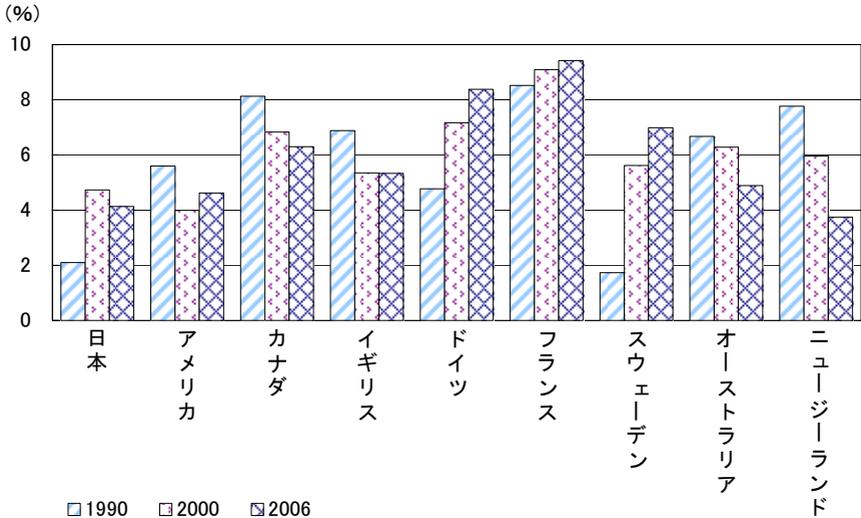


4-1 ILO定義失業率



▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第4-1表 標準化失業率」(p.142)を参照。

各国で公表されている失業率は、国によって定義が異なるため、そのままでは国際比較ができない。そこでILOでは、ILO指針による失業率を定義している。この定義に基づいて各国の失業率が比較可能となるように試算しているのが、OECDによる「標準化失業率」である。

日本の失業率は2002年まで上昇傾向にあったが、2003年から2006年にかけて徐々に低下し、2006年は4.1%と欧米先進諸国に比して低水準にある。上のグラフに挙げた国をみると、ニュージーランド、オーストラリア、カナダ、イギリスで1990年から2006年にかけて失業率の大幅な低下がみられた。一方、ドイツ、フランス、スウェーデンでは同期間に失業率が上昇した。特にスウェーデンの上昇幅が大きい。